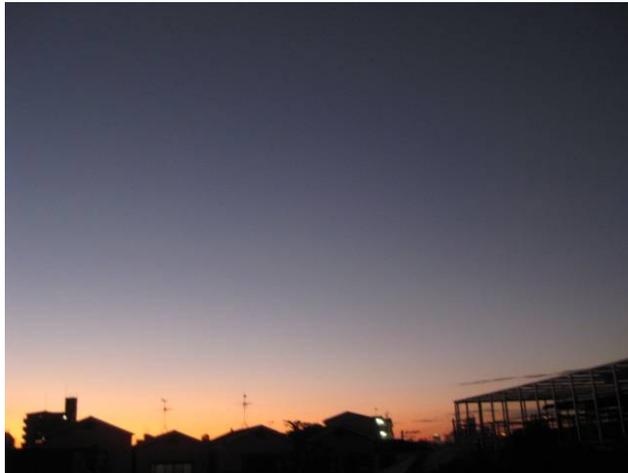


---

## Catch the eye 2015年11月

---

2015/11/3 秋晴れの夕空  
(火)



2015/11/9 東洋陶磁美術館 秋晴れが続く。昨日に続き、今日も気温は20度を超えそう。寒暖の差がはげしいと、紅葉はきれいになるらしい。見頃に期待しよう。

期待といえば、大阪市立東洋陶磁美術館の『新発見の高麗青磁』展。地下鉄車内の吊り広告を見たときから、これは行こうと思った。

ずいぶん前、日経の文化欄に韓国の海洋考古学の成果が紹介されていた。その成果の展示だろうとピンときた。

仕事の一つが落ち着いて一息ついた先週、あの落ち着いた建物に入った。大阪の名誉のために、この美術館があつてよかったと思う。

いつもの特別展示は、専用の小さな展示室だが、今回は違った。常設の展示を移動して、広く展開されていた。

海底に沈んだ船から引き上げられた青磁の品々。荷札にあたる木片がそばに添えられている。頭の中に当時の生活ドラマが映るよう。

時空をこえて、いま目の前にあるこのもの。そこに魂がやどるように感じるのは、人のなせるわざ。この特別展示、11月23日まで。

2015/11/9 書くこと  
(月)

この時期にだらだらと雨がふるなんて。そういう雨のときは気温が高い。念のためにスカーフを巻いて出たけれど、すぐに外した。地下鉄の中では長袖のTシャツだけの人も。昨日は立冬、暦の上では。

立春、夏至、立冬。それに合わせてリーズレターを書き、ネットに掲載し、メールで各人、各グループ、各所に短文を添えて、送信する。昨日の朝、立冬のレターを送りおえた。

書くこと。もう20年の習慣。いや、もっと昔をたどれば10代の頃から書いている。ただ、書く内容の質が違う期間がある。20代半ばから30代初めにかけて。

女性にとっては華やかな頃。でも、いまふりかえると、人生の途上、なんとつまらない頃だったろうと思う。浮つくというか、まわりがそうするというか。

このところよく引用する話、『話すこと、書くことは魂の労働です』（若松英輔）。20代半ばから30代初めはそういう労働になっていなかった、書いたとしても。その期間を経て、またその労働をとり戻す。

人に見せても見せなくても、どうあれ身の丈にあったものしか書けないもの。それも書く意義の一つ。自分で自分を立てての一つでもある。だからまた、書くのでした。

2015/11/11 大阪城公園  
(水)

仕事のついでに秋散歩





2015/11/18 三旬前の予感  
(水)

あっというまに中旬になってしまった。それでも暖かい。昨日に続き雨の大阪。地下鉄車内はむしっとした。23日は小雪。

フランスでの連続テロ。重大な出来事を前にしたときに、よく表れる個々人の知性と感性。

ラジオがネットの話題を紹介していた。フランスへの連帯表明の意味を問うもの。中東で起こる同様の出来事との差。

夏至のリーズレターに書いた『五十年2クールで見る未来』。1945年から2045年までを鳥瞰した。

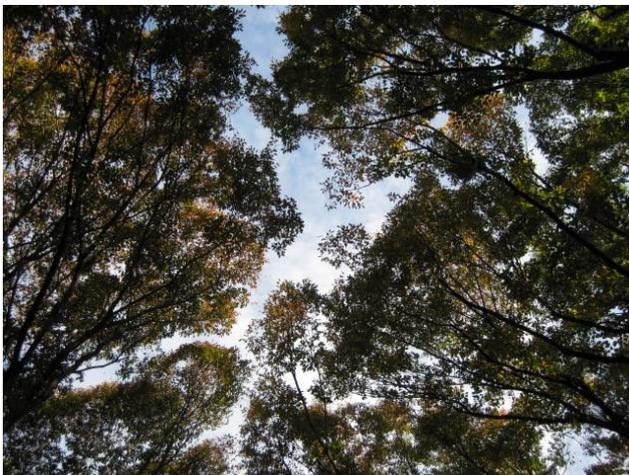
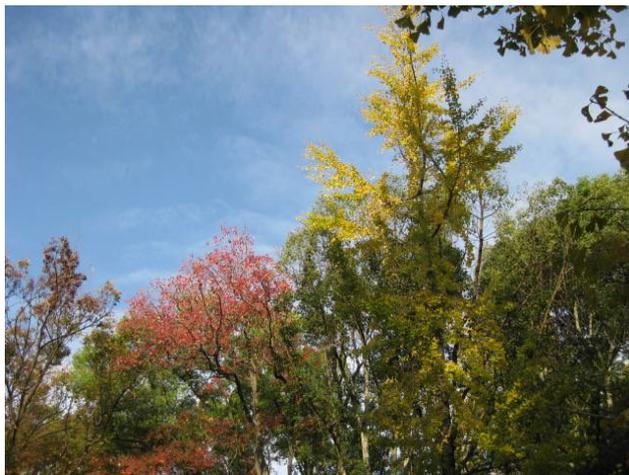
昨年2014年は第一次世界大戦勃発から100年。いまここに来て、2045年節目の新たな混沌の三旬前がクリアになってきたのか。

これから大人になっていく子供たちの未来は、はてさて。

2015/11/21  
(土)

紅葉

この日は朝10時からクレオ東で『働く女性の＜私を磨く＞ビジネスセンス塾—不文律を学ぶ』。早めに出て、大阪城公園を散歩。11月も下旬なのに暖かく、紅葉の見頃はまだ先。



2015/11/24 「理」と「不文  
(火) 律」

キーボードを打つ手をとめ、指先を合わせる。今日はすこし気温が低いよう。室内にいても、ひんやり。陽はさしてきた。雨が降り、たぶん、すっきり晴れる。昨日は小雪、2週間後は12月大雪。

今朝一番、CCでメールが届いた。送り主が昨日出かけた講演会の話と感想、そして教訓が書かれていた。仕事の渦中にいると「理」を見失いやすいこと、そうならないために必要なこと、などが。

送り主が宛てた相手は何をどう感じたろう。そんなことを推し量りながら、自分はというと、読み終えて、送り主の懐の深さというか、仕事であっても仕事を超えたところでの人への思いというものを感じた。

先週土曜の『ビジネスセンス塾－不文律を学ぶ』。結局大事なことはそういうことだと話していた。目には見えない精神のあり様。その一端として表れる振る舞い。

何が善くて何が悪いか。自分ならどうするか。そんなことを考える一日。午前中2時間、午後3時間。よくある時間割ながら、この塾を終え帰ったら、“疲れている…”。

たぶん頭を相当に働かせた。個々人で異なる認識、意識、感覚、など等。何をどう説けば、伝わるか。事前に考え、本番でも話しながら、考えていたと思う。

これまでは単発的に話していたことを、じっくり時間をとって考え、話す。そして、まさにそれを期待して申し込んだという受講者たちの参加。こういう機会を得たことに感謝。

2015/11/27 早朝の満月  
(金)

窓越しに月光、起きがけに一枚。



事後メモ

11月は21日の「不文律を学ぶ」セミナーが自分自身にとって大きなトピック。主催側と問題意識が共通していたということもありますが、一般にはそうそう採用されそうにないテーマ。こういうセミナーを担当できて本望。仕事をする上で付帯的に学んできたことを主役で表舞台に立たせることができたような感覚。演技はほんの一部だったけど、スポットライトがあたったところに意味あり。